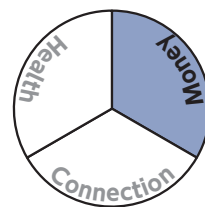


向こう1年間の市場見通し (10月6日時点)



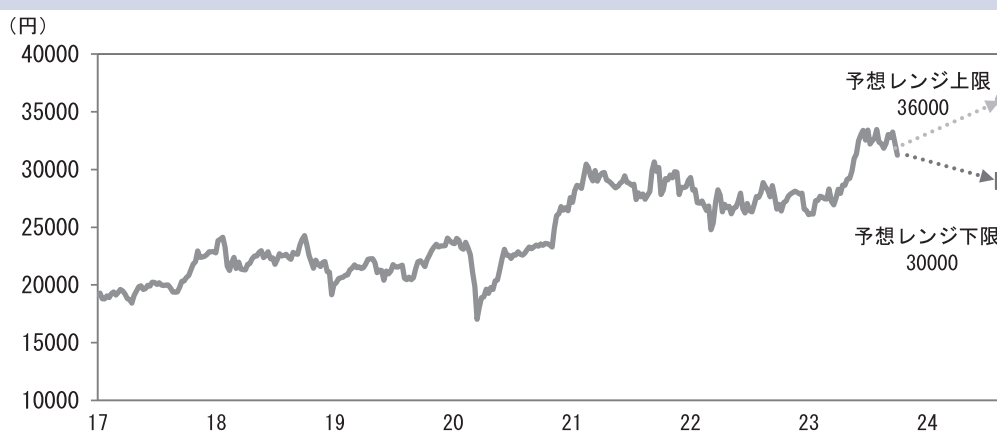
経済調査部 主席エコノミスト 藤代 宏一 (ふじしろ こういち)

予想コメント

	コメント
株式	日本株は企業業績の拡大、積極的な株主還元を背景に持ち直しを予想する。米国の金融引き締めが終盤に差し掛かる中で、海外株の下落圧力も弱まると予想する。もっとも、米長期金利が高止まりすることで世界的に株式の(債券に対する)相対的な魅力が低下する可能性に注意が必要。
ドル円	米国のインフレは峠を越したものの、FRBの金融引き締めが終了したかは定かではない。将来的には日米金利差縮小を見込む投資家のドル売り・円買いが見込まれるが、その時期は利上げ終了を待つ必要がある。また日銀の金融緩和が続くとの見通しから円売りが再開する可能性もある。
金利	日銀はイールドカーブコントロールの修正に着手し、長期金利の変動許容幅は±1.0%に拡大した。今後、賃金上昇率が加速し、日銀が持続的な物価上昇に自信を深めれば、マイナス金利の解除に踏み切る可能性が高まる。その時期は2024年前半を想定する。

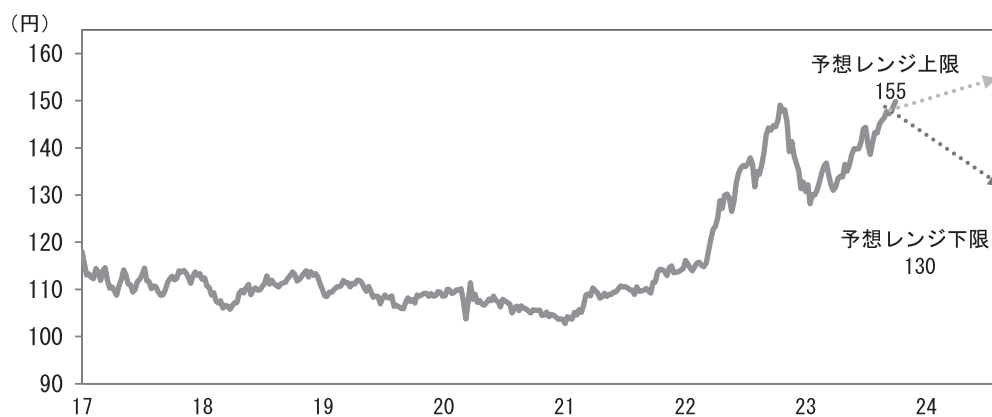
(注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

向こう1年間の日経平均株価



(出所)Refinitivより第一生命経済研究所作成

向こう1年間のドル円相場



(出所)Refinitivより第一生命経済研究所作成